

第17回 地域医療連携推進協議会
小児初期救急医療検討部会（ハイブリッド開催）
（議事要点記録）

日時 令和5年12月12日（火）午後7時00分から
場所 区議会第一委員会室（シビックセンター24階）

<会議次第>

- 1 部会長等挨拶
- 2 報告・議題
 - （1）豊島文京こども救急事業の実績報告について
 - （2）子どもの救急・急病ガイドブックの修正点について
 - （3）その他
- 3 閉会

<配布資料>

- 資料第1-1号 豊島文京こども救急事業実績（令和3年10月～令和4年9月）
資料第1-2号 豊島文京こども救急事業実績（令和4年10月～令和5年9月）
資料第2号 子どもの救急・急病ガイドブック修正箇所一覧
参考資料1号 文京区地域医療連携推進協議会設置要綱
参考資料2号 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会員名簿
参考 文京区平日準夜間小児初期救急診療事業チラシ

<出席者>

松平隆光部会長、大塚宜一委員、伊藤保彦委員、細川奨委員、
福永英生委員、松井彦郎委員、安藏慎委員、金海仁美委員、
佐藤毅委員、矢内真理子委員

<欠席者>

内海裕美委員

<オブザーバー>

寺崎仁地域医療連携推進協議会会長

<事務局>

田口健康推進課長

<傍聴者>

0人

1 部会長等挨拶

田口健康推進課長（事務局）；皆様、こんばんは。私は文京区健康推進課長の田口と申します。本日は師走のお忙しい中、会議へご参加いただきまして誠にありがとうございます。まだお見えになってない方も若干いらっしゃいますが、定刻となりましたので、これより会議のほうを始めさせていただきたいと思えます。

今回もオンライン参加と、こちらの文京シビックセンターの会場参加の方を合わせましたハイブリッド形式での会議となります。

会議の開催に当たりまして、事務局よりお願いがございます。

オンラインでの参加の皆様につきましては、通常時はマイクをオフ、ミュートにさせていただきまして、ご発言のときにオンにさせていただくようお願い申し上げます。また、会場参加の皆様におかれましては、目の前にございますマイクのスイッチボタンを押してから発言し、発言が終わりましたらスイッチを切っていただくようお願いいたします。

なお、会議の要点記録を作成するため、録音を行っておりますので、皆様、ご発言の際にはお名前をおっしゃっていただいた後、お一人お一人ご発言くださいますよう、よろしくようお願い申し上げます。

それでは、第17回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会を開催するに当たりまして、事務局からご報告をさせていただきます。

今回は任期が切り替わった後の初めての部会となります。部会員の皆様への委嘱状につきましては、既に郵送をさせていただいたところでございます。

次に、本部会の部会長ですが、本日、参考資料1として添付させていただいております文京区地域医療連携推進協議会設置要綱の第6条第5項によりまして、検討部会の部会長は保健衛生部長が指名することになっております。令和5年8月7日に開催いたしました第16回文京区地域医療連携推進協議会におきまして、既に保健衛生部長により松平委員を指名させていただきまして、協議会での承認を得ております。

それでは、これより先の進行を松平部会長にお願いしたいと存じます。松平部会長、よろしくようお願いいたします。

松平部会長；はい。皆さん、こんばんは。今、部会長を拝命いたしました松平隆光と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は小児科の診療所をずっとやっているんですけども、最近の子供たちは非常に厳しい生活環境にあると思えます。それは一つには、感染症が非常に多いことですね。インフルエンザの大流行だけではなくて、コロナであったり、アデノウイルスであったり、ノロウイルスだったり、あと溶連菌も流行していますので、かなり学校を休んでいらっしゃるお子さんたち、幼稚園、保育園もそうでしょうけども、なかなか子供たちの健康を害する機会が多くなっていると思えます。

それに加えてですけれども、我々診療所の医師が診療するために必要な各種の薬剤です。解熱剤であるとか、抗生物質であるとか、鎮咳剤であるとか、そういうものがすごく不足してしまっていて、十分な診療ができない状況にあります。また、このアデノウイルスとか溶連菌とかを調べる検査キットも不足しておりますので、お父さん、お母さんにも大変心配をかけるような診療になっております。

こういう時期にちょうどこの部会が開かれるのも一つのタイムリーな、いいタイミングだと思いますので、今日はぜひ活発なご議論をいただきたいと思います。

それでは、出席状況及び資料の確認をさせていただきたいと思います。事務局からご報告をお願いいたします。

田口健康推進課長（事務局）；はい。それでは、本日の部会員の皆様の出席状況をご報告させていただきます。

本日は、内海部会員が小石川医師会様の理事会と重なったため、ご欠席となります。そのほかの皆様は、オンラインもしくはこちらの会場にてご参加いただいております。

続きまして、本日の配付資料について確認させていただきます。資料はメールもしくは郵送にてお送りしております。なお、資料第1-2号と参考資料第2号につきましては差し替えがございました。大変申し訳ございませんでした。

それでは、順に確認させていただきます。本日の次第、それから、豊島文京こども救急の事業実績を記載しました資料第1-1号と資料第1-2号。子どもの救急・急病ガイドブックの修正箇所を一覧表にした資料第2号。それから、参考資料としまして第1号が、文京区地域医療連携推進協議会設置要綱。参考資料第2号として、文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会名簿、12月1日現在の計5点となります。また、郵送させていただきました冊子の子どもの救急・急病ガイドブックと、平日準夜間 豊島文京こども救急のチラシでございます。

会議資料に不足がございましたらお申出ください。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

松平部会長；それでは次に、新任部会員のご挨拶をいただきたいと思います。内海先生は今日理事会でご欠席でございます。新しくなられた2名の部会員の先生方、ご発言をいただきたいと思います。

まず、新しく部会員になられました金海部会員からご挨拶をいただきたいと思います。

金海部会員；区民代表で、文京区民生・児童委員の主任児童委員、本富士地区を担当させていただいております金海仁美と申します。何年か前にも一度この会には参加させていただいているんですが、二度目となります。よろしくお願いたします。

松平部会長；どうぞよろしくお願いたします。

それでは続きまして、佐藤部会員からご挨拶いただきたいと思います。

佐藤部会員；今回初めて参加いたします。大塚地区の民生委員をやっております佐藤毅と申します。よろしくお願いいたします。

松平部会長；どうぞよろしくお願いいたします。

2 報告・議題

(1) 豊島文京こども救急事業の実績報告について

松平部会長；それでは、報告を兼ねた議題に移らせていただきたいと思います。

豊島文京こども救急事業の実績報告につきまして、事務局よりご報告いただきたいと思います。

田口健康推進課長（事務局）；それでは事務局より、豊島文京こども救急事業実績につきましてご報告をさせていただきます。資料は第1-1号と第1-2号の2点でございます。

まず、資料第1-1号でございますが、こちらは令和3年10月から令和4年9月までの実績でございます。

次に、資料第1-2号でございます。こちらは令和4年10月から令和5年9月までの実績でございます。

資料のつくりとしまして、10月から9月までの1年間ということで作成してございますのは、こちらの事業が令和元年10月から始まった関係で、こうした形で資料を作らせていただいております。本日はこちらの資料第1-1号をその前の1年間、第1-2号を直近の1年間ということで比較する形でご報告をさせていただきます。主に資料第1-2号のほうを中心にお話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料第1-2号、令和4年10月から令和5年9月の分でございますけれども、まず、こちらの表の一番上の行、左から3列目に、1日当たりの平均の患者数とございます。この一番下の行をご覧くださいと、1.77人とあります。こちらは、1日当たりの平均の患者数を年間でならしたものでございます。同じように、その前の1年間、資料第1-1号につきましては1.46人で、比較いたしますと、1日当たり0.31人の増加となります。

また、資料第1-2号に戻っていただきまして、患者数の増加ですが、①の取扱患者数にも反映されておまして、ここ1年間では、年間で428人となってございます。その前の年、資料第1-1号では354人となっております、この1年間で74人の増ということになります。

内訳でございますが、新来院の方につきましては70人の増、再来院の方につきまして

は、4人の増ということで、新しく来院されている方が増えている状況でございます。

昨年につきましては、まだコロナ禍ということもありまして、外出や受診を控える方たちもまだまだいらしたかと思えます。今年の5月に感染症5類に移行したこともございまして、8月を除きまして、5月からは1か月当たりの患者数が大体40人を超えるようになってまいりました。これまで外出や受診を控えていた方たちが病院に来るようになりまして、増加したものと思われます。

続きまして、②の時間帯（受付時間）でございます。19時台、20時台、21時台、22時台と四つの時間帯に分けてございますが、19時台が昨年より5人の増、20時台が40人の増、21時台が19人の増、22時台が10人の増と、いずれの時間帯とも患者数が増えています。特に、20時台、21時台に訪れる患者数が多い状況でございます。

続きまして、③の年齢でございます。前年と比較しますと0歳の方につきましては16人の増、1歳から4歳の方は21人の増、5歳から14歳の方が35人の増、15歳の方が2人の増ということになっております。こちらも各年代ともに増えておりまして、特に5歳から14歳の方が直近の1年間では増えているという状況でございます。

次に、④患者さんの住所でございます。豊島区の方につきましては177人、前年より10人ほど増えております。文京区につきましては197人と、前年より55人も増えております。また、文京区、豊島区以外の方につきましては54人ということで、前年よりも9人の増となっております。

次に、大塚病院の小児科医への引継ぎでございます。こちらは救急の時間を過ぎてからいらした方に対しまして、大塚病院に救急対応で診療をしていただいております。まず、帰宅対応のところでは、診療後に帰宅いただいた方は4人ということで、前年よりマイナス1名となっております。あと、入院対応としまして、そのまま入院された方が2人おりまして、こちらは前年と同数でございます。

最後に電話相談でございます。合計で755人となりまして、こちらは前年よりも84人の増となっておりますので、電話相談につきましても増えている状況でございます。

資料第1号についてのご報告は以上となります。

松平部会長；ありがとうございました。

今、豊島文京こども救急事業実績につきまして、事務局よりご説明がありました。これにつきまして、部会員の方からご意見、ご質問をいただきたいと思えます。

なかなかこの豊島文京こども救急事業が、利用される人数が増えないということがありますけれども、これはいいことであるとも言えると思うんですけれども、形態としては、非常に豊島と文京、広い地域を扱っていますし、それから救急診療を都立の大塚病院の中でやらせていただいているということで、いわゆる病院と連携が保たれているということは、非常にいい環境でやっているわけですが、それでも1日について1.7人、非常に少ない数でございますけれども、こういうことについても何かご意見があればいただきたいと思っております。

一つには、私は診療していて、やはり予防接種が非常に多種、たくさんの種類が実施されるようになって、子供の重い急性感染症が少なくなったということと、それから、夜間やってらっしゃる診療所ができたということと、それからやはり、お父さん、お母さんに対するこの小児の救急の啓蒙運動がかなり充実した結果ではないかと思っていて、私としては喜ばしい内容だと思っております。

何かご意見はありますでしょうか。もしあれば、また後でお伺いすることもできると思います。次に移らせていただきます。

(2) 子どもの救急・急病ガイドブックの修正点について

松平部会長；次に、今年の11月に新たに発刊していただきました子どもの救急・急病ガイドブックの修正点につきまして、事務局のほうからご説明いただきたいと思います。

田口健康推進課長（事務局）；それでは、議題2の子どもの救急・急病ガイドブックについてご報告申し上げます。こちらは委員の皆様方からご意見をいただきまして、ブラッシュアップをかけながら隔年で印刷しているものでございます。

今回は、前回のものを修正して印刷したものを委員の皆様方にお配りしているところでございます。委員の皆様には、ガイドブック発行に当たりまして、お忙しい中、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

前回の修正では、全体的なレイアウトやイラストを刷新、各ページにもインデックスをつけて検索しやすいようにいたしました。今回の修正箇所は、資料第2号の一覧のとおりでございますが、前回ほどの大きな変更はございませんでした。

主なものとしたしましては、各委員の皆様から寄せられましたご意見を基に文言を修正したり、あるいはホームページのURL、リンクが切れたり新しくなったところの変更であったり、それから診療機関での対応時間の変更等でございます。

雑駁ではございますが、報告は以上となります。

松平部会長；ありがとうございました。

11月からまた刷新されたガイドブックが発刊されております。今ご説明がありましたとおり、また資料第2号についてご意見がありましたら受けたいと思っております。

非常にこのガイドブックが分かりやすく、お父さん、お母さんに非常に好評だと思います。2年に1回また改定するかと思いますが、このたびも非常によく内容が充実していると思っております。何かご意見があればいただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。後でまとめてご意見をいただくこともできると思います。

(3) その他

松平部会長；事務局から実績報告と、ガイドブックについてのご説明をいただきました。それを踏まえて、どんなことでも結構ですので、部会の先生方、何かご意見があればいただきたいと思います。

私から、病院の先生方、大学の先生方にお聞きしたいんですけども、豊島文京こども救急事業が1日平均1.7人というのは少数でございますけれども、初期の救急の患者さんが病院であるとか大学病院のほうに行ってしまうという現状はありますでしょうか。順天堂大学医学部附属順天堂医院はいかがでしょうか。

福永部会員；順天堂大学医学部附属順天堂医院の福永です。

基本的には、私どもは大学病院ですので、もともと基礎疾患がある人が、いわゆる風邪を引いたとか、そういう患者さんはもちろんいっぱいいるわけですけど、ただ、いわゆる完全に初診で、いわゆる一次でこどもクリニックのほうに行ってもいいのかなという患者さんもやっぱりポチポチ来院はされているみたいではあります、すごく多いという印象はないと思っています

松平部会長；ありがとうございます。

日本医科大学付属病院はどうでしょうか。

伊藤部会員；はい、日本医科大学付属病院の伊藤です。

コロナの頃は本当に患者さんが少なくて、これはどこに行っているとかということじゃなくて、診療に来るのを控えていたと思うんですけど、最近に関しては、一次救急に当たる患者さんもちょっと増えているかなという印象は受けています。ただ、日本医科大学の来院患者さんは、どちらかという葛飾区、足立区、荒川区の人たちなので、この救急事業とはあまり関係ないのかなという印象を持っています。

松平部会長；ありがとうございます。

そうしますと、豊島文京こども救急事業が、人数は少ないけれども、大学病院の先生方にご迷惑をかけている状況ではないということに理解させていただいてよろしいでしょうか。

民生委員の方、いかがですか。佐藤委員、どうでしょうか。何かお立場からご発言があればいただきたいと思います。

佐藤部会員；民生委員、佐藤です。この件に関しては、地区の方からのお話やご相談というのはあまりないものですから、特にございません。ただ、このガイドブックがどういう方に配られているのか。例えば、小さなお子さんがいらっしゃる方なのか、全戸に配られているのかというのがちょっとよく分かりません。ガイドブックの配り方はどのようになっているのでしょうか。

松平部会長；ありがとうございます。小児科の診療所には置いておきまして、患者さんに自由にお持ち帰りいただくような体制になっています。事務局のほうで何かありましたらお願いします。

田口健康推進課長（事務局）；はい、事務局でございます。

小児科の医院の窓口に置いていただくほか、保健サービスセンターでのお子さまの健診時にお母様方にお渡ししているという状況でございます。

松平部会長；母子手帳をお渡しするときには渡してないんですね。

田口健康推進課長（事務局）；そうですね。母子手帳交付時には母子保健バッグの中には入れてございません。

松平部会長；比較のお父さん、お母さんに自覚を持ってもらうのは母子手帳交付のときだと思いますので、もし機会があれば、そういうこともご検討いただきたいと思います。どうもありがとうございます。

そのほか、ありますでしょうか。

矢内部会員；部会長、よろしいですか。

松平部会長；はい、どうぞ。

矢内部会員；文京区保健衛生部長の矢内でございます。先生方には日頃から文京区の保健医療行政にご理解とご協力をいただいております。また小児初期救急医療の確保につきましても、多大なるご尽力をいただいていることに御礼申し上げます。

冒頭、松平部会長からもお話がありましたけれども、感染症の流行ということで、現在コロナとインフルエンザに関しては1回下降を見せたんですけれども、また先々週ぐらいからちょっと上向いている状況で、年末を心配しております。咽頭結膜熱と溶連菌感染症については非常に高い水準で都内でも流行が続いている状況で、先生方にもいろいろご尽力いただいているかなというふうに思います。

そのほか、中国での小児の呼吸器感染症の流行についてということで国からも通知が出たりしております。保健所でも様々な警戒を強めているところでございます。

松平部会長からもお話のあった医薬品あるいは検査キットの不足については、先生方からもご意見をいただいておりますので、私どもから東京都のほうにも伝え、東京都から国にも要望をかけておりますけれども、なかなか状況が改善しないという状況で、引き続き私どもでも東京都と情報交換を進めていきたいというふうに思っております。

本日は本当にどうもありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

松平部会長；ありがとうございます。いろいろ今お話がありましたとおり、本当に感染症が近年になく増えておりますので、子供たちも大変だと思っております。

そのほか、ご意見、何でも結構ですから、ありましたらお聞かせくださいますか。大塚先生、ご発言をお願いいたします。

大塚部会員；文京区医師会の大塚です。松平先生、どうもありがとうございます。

まず、豊島文京こども救急事業実績ですけれども、昨年比べて今年は文京区民の方のご利用が増えたというのは非常によかったんじゃないかなというふうに思いました。

やはり正直、現場で担当している者としては、もうちょっと患者さんがいらっしやってもいいのかなというのが、正直、感じているところですが、この数が妥当なのかどうかってなかなか客観的に判断するのが難しいですよね。そういった意味で、過去に例えば大学病院の先生方とか、区内の救急診療に携わっていらっしやる病院の先生方をお願いして、例えば各救急施設でどれぐらいの数の患者さんを受け入れてらっしやるのかとか、そういうのを結果的には区民がどれぐらい夜間の救急を利用されているのかとか、そういうのがもし把握できることがあるのであれば、そういうのも我々から、こういった事業する者としては有効な、何ていうんでしょう、実績、情報提供になるんじゃないかなと思います。その上で大塚病院のほうで、夜間、我々がどれぐらい見るのが妥当なのかとか、そういうのも判断できるのかなというのをちょっと思いました。

あと、やはり我々が日頃診療していて、お子さんの薬がないというのが非常に差し迫った喫緊の課題なのかなというふうに思うんですけれども、例えば薬局においても小児をメインとして扱う薬局と内科をメインとして扱う薬局ですかね、何かそういうふうな分類分け、仕分がもしできるのであれば、結局その区民の方は、もう本当にあちこちの薬局を回ってお薬はありますか、お薬はありますかって聞いて回っているのが現状だと思いますので、その少量の、何ていうんでしょう、本当に分散してしまうというのが結果的に十分な薬がないというものの一つの要因になっている気がしますので、もし可能であれば、そういう、ここに小児のお薬があるところというのを指定していただくような、そういうふうなことができるのかどうかというのも今後の検討課題と思いました。

松平部会長；ありがとうございます。今、大塚先生が言われたとおり、豊島文京こども救急事業が人数は少ないんですけれども、本来来るべき人が大学病院なり、ほかの大きな病院に行っているということはあまりなさそうなので、機会があればそういうことも調べてみたいと思いますが、病院の先生方にお聞きしても、小児の初期救急で大変困っているということはあまりなさそうなので、小児初期救急に必要な方自体が少なくなっているのではないかと考えています。これは感染症の予防接種のおかげとか、お父さん、お母さんの認識の問題もあると思います。もしまた病院に初期救急に行くような事態が

ありましたら、調査させていただきたいと思っております。

私自身、昨日ちょうど大塚病院の準夜当直に行き、8時から11時まで、3時間勤務したんですけれども、2人の方がみえただけでした。この事業は、今日早急に結論を出すことは難しいと思います。この少ない患者さんではございますが、文京区民、豊島区民の方たちのゲートキーパーになっているんだと思っておりますので、少ないけれど、小児初期救急の受入れ先があることが大切であると思っております。

一つ、大人の方、高齢者の在宅の問題で、東京都医師会の事業で、在宅の夜間の往診を特別な事業者に肩代わりしていただくという夜間・休日往診強化事業ですか、こういうものが小石川医師会でも始まっています。在宅をやっている先生方が夜出かけるのは大変だから、こういう夜間救急専門の医師が行って、その往診を代わってあげるといふ事業なんですけれども、将来的にはこういうものを含めて考えていかなければいけないと思っております。

ただ、うちの患者さんでもこれを利用して、いわゆるファストドクター的な方を利用して、風邪でも利用する。本当に助かったと言われますけれども、医療費レベルにするのと数万円かかるわけですから、こういうふうに安易に使われる事業になってしまつては困ると思います。患者さんにとっては、うちに来てくださるといふ医療も非常に喜ばれるということで、近い将来、こういう事業も含めて、この小児救急の在り方についても検討していただくのが大切になってくると思っております。

何かご質問、ご意見があればお受けしたいと思っております。

金海部会員；松平先生、よろしいでしょうか。本富士地区主任児童委員の金海です。

私、文京区版の子育てガイドの編集委員も何年かやっているんですけれども、そちらは母子手帳を配付するときに一緒に配られるようになっておりまして、そのとき、先ほどもお話が出たように、この救急・急病ガイドブックを予算的にオーケーなら一緒に配付していただけると、新米ママさんたちにとっても役に立つのではないかと思います。

あと、子育てガイドも昨今、外国人の方が増えておりまして、いよいよ来年辺りから英語バージョンも検討していくということが話に出ております。こちらのほうも救急・急病ガイドブックはどのようにしていくのかご検討いただけたらと思われました。

以上です。

松平部会長；大切なご意見、ありがとうございます。事務局のほうで答えいただけますでしょうか。

田口健康推進課長（事務局）；はい。先ほどもありましたとおり、母子手帳の交付時、こちらのほうについてはぜひ検討していきたいと思っております。また、外国語版につきましては、翻訳したりするので少し時間がかかるとは思いますが、こちらについても将来的には前向きに検討していきたいと思っております。

松平部会長；ありがとうございます。ただ、毎日診療しておりますと、確かに資料として配っていただいているんですけども、なかなかお父さん、お母さん、あまり読んでくれないんですね。診療の中で読んでいただくことを勧めておりますけれども、配ることも大切ですけど、読んでいただくような方針、推進することも必要だと思っております。

今お話にあったように、母子手帳交付のときに一緒に配るということは可能でしょうか。予算的にとか、タイミング的に。

田口健康推進課長（事務局）；ちょっと予算的なところは、今すぐにお答えできないんですが、これは隔年印刷で作成していますので、言うなれば、2年分一度に作成していますので、それを1年で配付しまして、それでまた新たに予算を取るとか、そういったこともできるかと思えます。こちらについては区の財政部門のほうとも協議しながら検討してまいりたいと思えます。

松平部会長；ありがとうございます。おそらく、今、文京区の出生数は年間2,000名ぐらいですかね。そうすると、部数はいつも2万部ぐらい刷ってらっしゃいますよね。ぜひ担当部署のほうでご検討いただいて、私もやはり母子健康手帳を交付する 때가一番目につきやすく、認識を覚えるところだと思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。

そのほか、ご意見がありましたらお受けしたいと思えます。

金海部会員；松平先生、主任児童委員の金海です。

民生・児童委員の方々は、毎月、児童館で計測のお手伝いをしているんですね。また、子育てガイドはなかなか厚さもあるので、毎日持ち歩くのは大変ということで、今、概要版の薄めのものを作っております、それでもお母様方に見ていただけないということで、今、児童館でも周知活動として、子育てガイドの宣伝のようにPRをしております。もし救急・急病ガイドブック、児童館に何部か置いておいてくださればそちらも併せて、もしご迷惑でなければ周知していこうというふうに、会に戻ってお話しできると思えます。

以上です。

田口健康推進課長（事務局）；そうしましたら、児童館のほうに各館何部かずつお送りするように見繕っていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

金海部会員；ありがとうございます。とてもいい冊子なので、こちらは皆さんにぜひ読んでいただきたいし、何かのとき、困ったときのために、本当にここに副題であります「～

あわてないために～」ということで伝えていきたいと思います。

以上です。

松平部会長；なかなか、お父さん、お母さんに配っても実際読んでいただけないという現状がございますので、そういう機会を捉えて推進していただければありがたいと思っております。

私の診療所では、子ども医療電話相談事業の「#8000」と、豊島文京こども救急事業、それから東京都医療機関案内サービス「ひまわり」、そういうものを名刺1枚にまとめたものを診療時間表と一緒に配っています。あまり厚いものではお父さん、お母さんは見てくれないみたいですので、機会を捉えて説明していただければありがたいと思っております。

3 閉会

松平部会長；今日ご検討いただいたことをまとめまして、またご報告させていただきます。

貴重なご意見をたくさんいただき、本日は本当にありがとうございました。